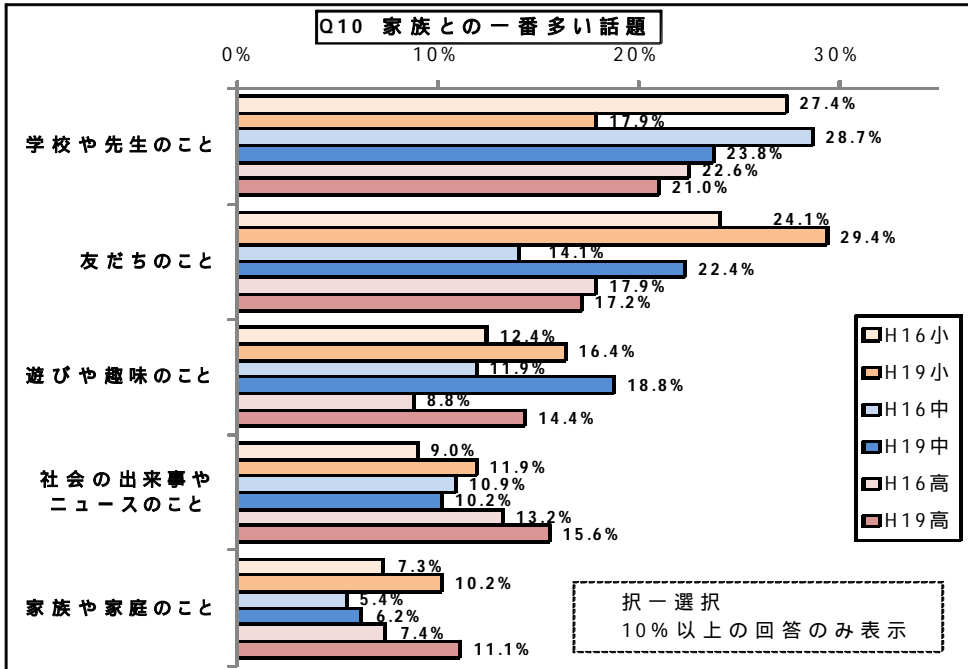


1 家族との一番多い話題（児童生徒・Q10）

H16調査と比較すると、小、中、高等学校ともに家族との話題が変化。



【概要】

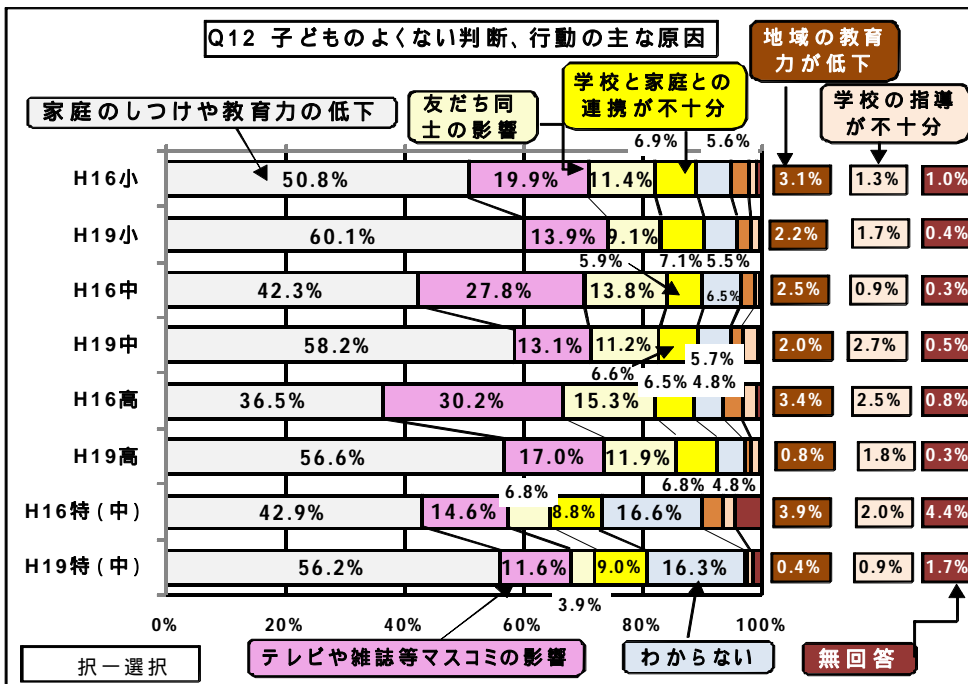
「学校や先生のこと」を話題にする割合が、小・中・高等学校ともに減少しています。その一方、他の内容を話題にする割合が高くなっています。

【家族との話題で増えていること】

- 小・中・高等学校
- 「遊びや趣味のこと」
- 「社会の出来事やニュースのこと」
- 「家族や家庭のこと」
- 小・中学校
- 「友だちのこと」

2 子どものよくない判断や行動の原因（保護者・Q12）

H16調査と比較すると、すべての校種で、「家庭のしつけや教育力の低下」を原因に挙げる割合が増大。



【概要】

すべての校種で、「家庭のしつけや教育力の低下」を回答する割合が約10%高くなり、半数を上回っています。

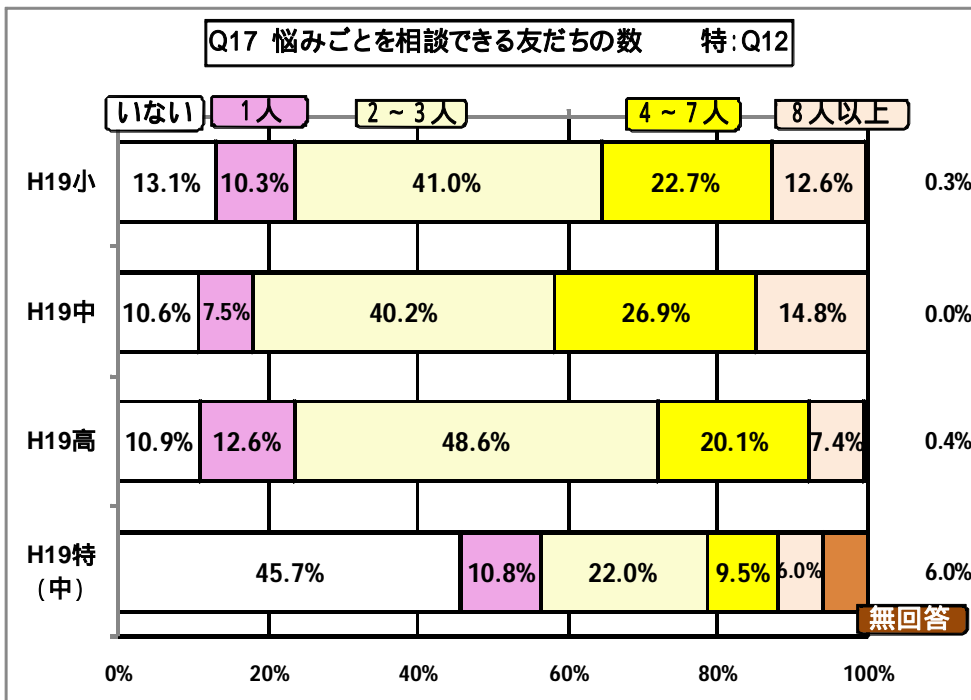
同じ調査項目で、「家庭のしつけや教育力の低下」を指摘した担任の回答の割合

- ()は、H16調査との差
- 小学校：60.6% (8.6%)
- 中学校：67.8% (10.8%)
- 高等学校：64.4% (-0.7%)
- 特別支援学校：50.3% (8.8%)

3 子どもの人間関係

(1) 悩みごとを相談できる友だち (児童生徒・Q17、Q12)

小、中、高等学校の約10%以上の児童生徒が、「悩みごとを相談できる友だちがいない」と回答。

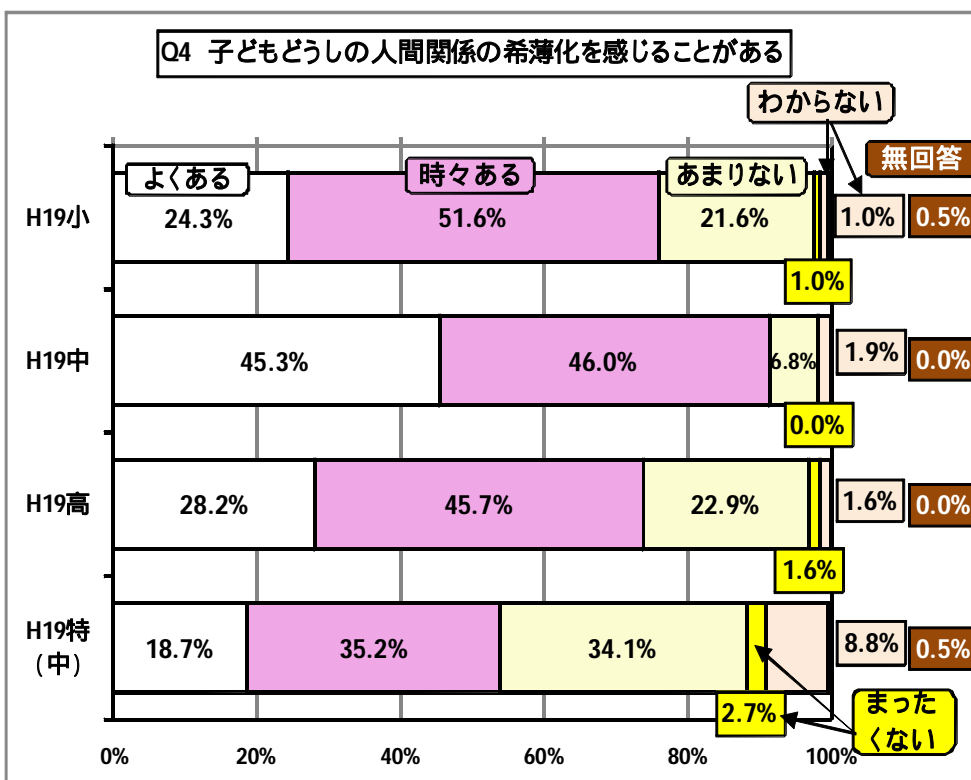


【概要】
「悩みごとを相談できる複数の友だち」が存在すると回答した割合は、小、中、高等学校で75%以上です。
その一方、「悩みごとを相談できる友だちがいない」と回答した割合は、小・中・高等学校ではそれぞれ10%以上です。

中学校では、「悩みごとを相談できる友だちの数」が、他の校種に比較して多い傾向となっています。

(2) 子どもどうしの人間関係の希薄化 (担任・Q4)

すべての校種で、「感じることもある」という回答が、「感じることはない」という回答を上回る。



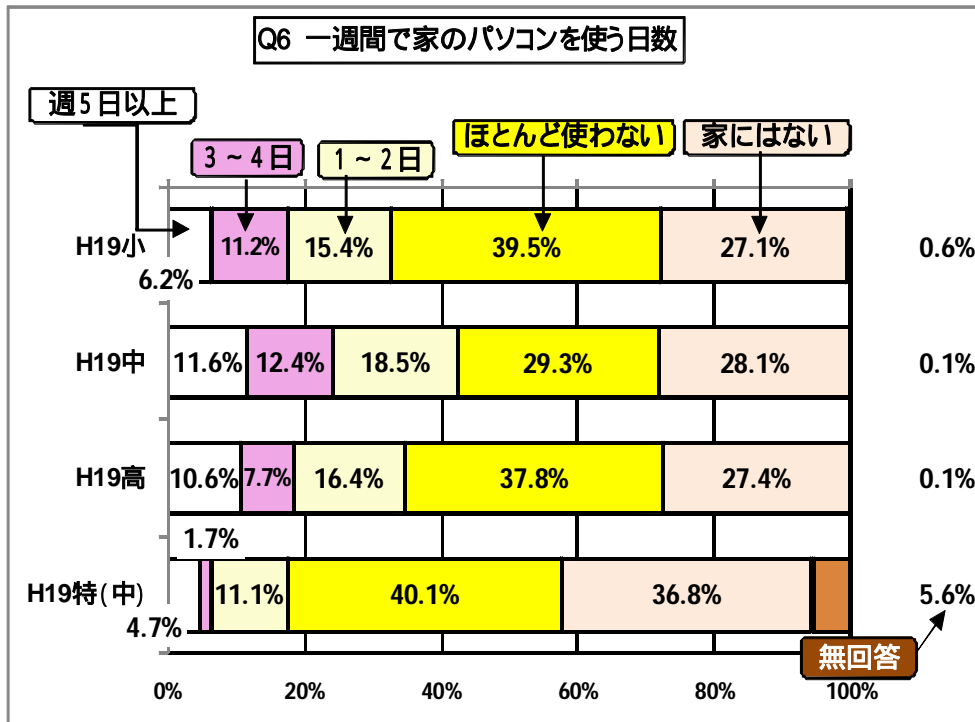
【概要】
小・中・高等学校において、「子ども同士の人間関係の希薄化を感じることもある」と回答した割合が、「感じることはない」と回答した割合を大きく上回っています。
特に、中学校では、「感じる」と回答した割合が90%以上です。

同じ調査内容での本調査における保護者の肯定的な回答の割合
小学校：58.7%
中学校：58.1%
高等学校：59.8%
特別支援学校：61.8%

4 パソコンの使用

(1) 使用の頻度 (児童生徒・Q6)

中・高等学校で、週5日以上使用している生徒が10%以上。

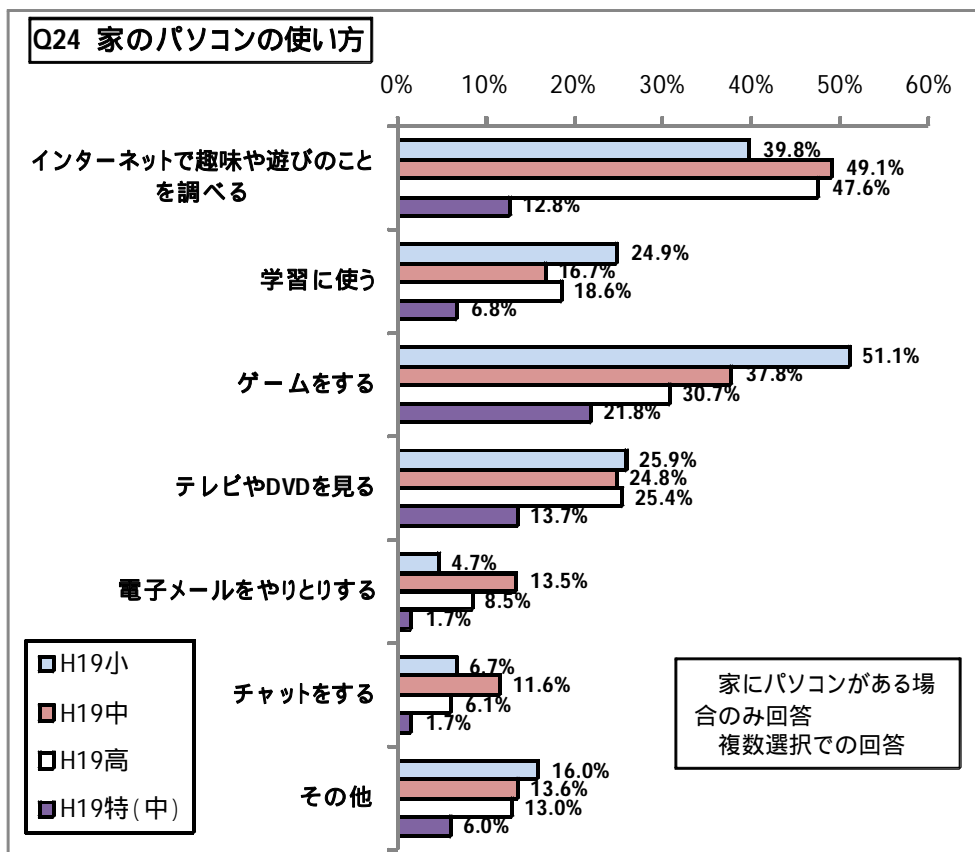


【概要】
「ほとんど使わない」、「家にはない」と回答した割合は、すべての校種で半数を上回っています。その一方、特に中学校の生徒において、パソコンを使う頻度が高い傾向にあります。

パソコンが「家にはない」と回答した児童生徒の割合 ()はH16の調査結果
 小学校：27.1%(33.9%)
 中学校：28.1%(33.6%)
 高等学校：27.4%(41.9%)
 特別支援学校：36.8%(44.4%)

(2) 使用の目的 (児童生徒・Q24)

インターネットやゲームでの使用頻度が多い。



【概要】
学校段階によって、利用の目的に違いが見られます。使用の中心が、小学校での「ゲーム」から、中・高等学校へと進むにつれ、「インターネット」へと切り変わる傾向にあります。また、中学校の生徒が、電子メールやチャットを利用している割合は、他の校種に比較して多くなっています。

「情報モラルの指導をしたことがある」と回答した、本調査における担任の割合
 小学校：66.3%
 中学校：62.4%
 高等学校：68.6%

教育調査

活用の アイディア!



その1・・・

校内研修で・・・

例えば、まず、1学期の終わりに児童生徒に質問してみましよう!

- ・「何時ごろに寝ているかな?」
 - ・「パソコンを何に使っているかな?」等々
- 夏季休業中の校内研修会等で・・・**
- ・「うちの学級は、・・・なのよ。」
 - ・「この学年は、・・・な傾向があるね。」
 - ・「センターの調査と比べて、いい傾向ね。」
 - ・「2学期は、 に入力を入れましよう!」

児童生徒の
実態把握と
共通理解



2学期に向けた
方針検討と
具体策確認

その2・・・

学級懇談で・・・



例えば、まず学級懇談の時期に合わせて、児童生徒に質問してみましよう!

- ・「朝食を食べて登校している?」
 - ・「自分の親はよく話を聞いてくれる?」等々
- 学級懇談会で・・・**
- ・「朝食を毎日食べることが(県の実態と比較して)少ないので、早寝、早起きとともに、ご理解とご協力を・・・!」
 - ・「『家庭が楽しい』という割合が多いので、今後も親子の会話を大切に!」等

児童生徒の
実態把握



保護者との
共通理解と
協力依頼

その他に・・・

こんな時の資料に!

外部評価等の基礎資料として
学校経営計画、学年・学級経営計画、学習指導案における児童生徒の実態の基礎資料として

(教育センターの調査結果と)学級・学校等の調査(の比較)により明らかになった課題は・・・

この課題の解決のために・・・

主な質問項目及び調査対象

	質問項目の概要	児・生	保	担
1	生活習慣 ・起床、就寝時刻 ・朝食の摂取 ・子どもとの活動			
2	子どもの状況			
3	読書好き、読書の取り組み			
4	パソコンの使用頻度			
5	パソコンの使用目的			
6	情報機器の使用方法の 話し合い、指導			
7	家族との朝食			
8	家庭での手伝い			
9	家族との話題			
10	家庭生活の満足度			
11	家族関係			
12	家族の理解度			
13	子どもの行動の原因			
14	放課後の過ごし方			
15	悩みを相談できる友人			
16	子どもの人間関係			
17	友人関係の意識			
18	保護者との関係			
19	しつけや教育の悩み			
20	乱れた学級のイメージ			
21	教育実践上の悩み			
22	学校への期待			
23	開かれた学校づくり			
24	職業観			
25	事件等への危機意識			
26	決まりの遵守			
27	職業観			
28	体験の有無 木登り、日の出見る等			

*校種により、質問内容に違いがある場合があります。

これまでの教育調査の流れは・・・

- 平成14年度学校教育調査A
- 平成15年度学校教育調査B(主に学習面)
- 平成16年度学校教育調査C(主に生活面)
- 平成17年度学校教育調査A
- 平成18年度学校教育調査B(学習)

すべて、当センターのWebページに掲載しています。

www1.iwate-ed.jp

活用してのご感想やご意見をメールでお知らせください。

E-mail: tyousa-r@center.iwate-ed.jp

まずは1問・・・

児童生徒の実態を把握してみませんか?